

～生徒数最多・全国入賞者数最多～ 驚異の道場経営・極意皆伝



道場経営の成功法則

養正館館長
渡辺貴斗

【第33回】 自分の道場を建てる！（5）

道場設計の工夫(2)

前回に引き続き、道場設計の工夫について述べてまいります。

★ロッカー、下駄箱は多めに

ロッカーは立方体（45cm角）の箱になるよう仕切りを入れ、玄関入って左右両面に30個ずつ配置し、計60個作成しました（写真1）。この写真は片面ですので、反対側に同じものがあります。仕切りを入れずに横長の長い棚にすれば、たくさんの子供たちが使うことができますが、隣の子の荷物と混ざってしまい、防具の紛失などのトラブルにつながります。1つ1つ壁で仕切られている箱式ロッカーにすれば、そのようなことは起こりませんが、荷物が水筒ひとつの子も1つの大きなロッカーを専有することになり、数が足りなくなることがあります。



写真1

そのようなときは、応急処置としてロッカー前の床に荷物を置かせています。箱式も棚式も、それぞれ一長一短ですね。

靴箱も可能な範囲で多めに作ることをお勧めします。将来、生徒数が増えた時、靴箱を増設するのは難しいので、高い位置（養正館は140cm）まで靴箱を作ると良いかと思います。上段は、小さい子は届きませんが、中学生が利用すれば良いですね。靴箱は、棚式にしましたが、ひとつずつ仕切る「箱式」もよろしいかと思います。

★大型ツインファン

本当は窓を開けて練習したいところですが、近隣に音が漏れるので、仕方なく練習中は窓を締め、エアコンを使っています。空気が悪くなるので、玄関



写真2

にツインファンという巨大扇風機（羽根径 45cm、ナカトミ製）を設置し、外の冷たい新鮮な空気を強制的に道場内に入れて、休憩ごとに全換気しています（写真 2）。換気に許される時間は 5 分ですが、強力な工場扇なので 1 分あれば十分です。感染症対策のため、真冬でもこまめに換気しています。

★ガラス引き戸

玄関のガラス引き戸のほかに、道場と玄関（ロッカーのある空間）を仕切るガラス引き戸をもう一つ設置してあります（写真 3）。2 部屋を間仕切りし冷房効率を上げるためです。玄関引き戸に対し、こ



写真 3

ハンガードアは、文字通り天井のレールに引き戸を吊り下げています。つまり、写真 4 で見るように引き戸が床から少し空中に浮いています。



写真 4

の道場側の引き戸は、ガラスではなく、ポリカーボネート板にすればよかったと後悔しております。組手の時にぶつかって割れるのではないかと、いつもヒヤヒヤしています。応急処置として、ガラス飛散フィルムを貼ってあります。これで、派手に飛散することはないかと思います。

この引き戸はハンガードアにしました。道場と玄関の間に引き戸をつけると、床にレールをつけることになり、段差ができてしまうからです。ハンガードアは、天井のレールから引き戸を吊り下げたもので、引き戸が空中に浮いている感じです。下にレールが無いので、バリアフリーで車椅子も通行でき、掃除がしやすいというメリットもあります（写真 4）。上から吊り下げているだけなので、触るとゆらゆら揺れて少々不安定です。簡単な間仕切り程度に考えてください。とても軽いので、幼児でも開閉が楽です。

PROFILE

■渡辺貴斗 TAKATO WATANABE

1968 年 4 月 20 日生まれ。7 歳から研修会副会長・渡辺貞雄（父）に師事。

2001 年に父の町道場を継ぎ、2006 年からコーチングを導入した指導法に切り替えると、2010 年に全少優勝者を早々に輩出。その後、2014 年 7 名、2015 年 7 名、2017 年 9 名など、1 道場からの「全少の全国最多入賞者数」を少なくとも 8 年連続で記録する。

1 道場に 380 名の道場生が在籍し、道場経営でも全国一を誇る。100 回以上続いた JKFan での連載「ZENSHO に行こう」で、空手キッズの指導にコーチング理論を導入し体系づけた空手界の第一人者。東京大学大学院博士号を持つ異色の指導者でもある。

空手道場 養正館／静岡県沼津市本田町 11-12



Column

子供への声掛けと道場経営に役立つ！ 人生を変えるおススメ本！（第29回）

■腹巻宏一著『柔道はすばらしい』★★★★★

私が JK ファンに 11 年間連載した「ZENSHO に挑戦しよう！」は、空手キッズへのコーチングについてまとめたものですが、この連載の原点は原田隆史先生の「カリスマ体育教師の常勝教育」であり、「態度教育」というパワーワードで養正館の基礎を作ることができました。

一方、3 年目に入りました本連載「道場経営の成功法則」ですが、この連載の原点となったのは、今回ご紹介する腹巻宏一先生の「柔道はすばらしい」です。平成 19 年、出版と同時に予約購入し、感動に震えて読みました。道場経営に関する国内史上初の本格的書で、私の道場経営に大きな示唆を与えてくれました。

腹巻先生は、筑波大学大学院修了後、一旦、一流企業に入社

されますが、のちに道場経営一本に舵取りされます。柔道と学習塾を融合させ、まさしく文武両道の紀柔館を立ち上げます。勝敗や技術偏重に陥りがちな現代の柔道に対し、主体性や思考力を育てようとする姿勢は、教育論としても参考になります。試行錯誤や失敗も率直に語られており、現場に根ざしたリアリティが道場経営者の共感を呼ぶことでしょう。

クラス編成、国際交流、道場建築、教育的観点からの試合への参加、全国大会への取り組み方、職業として柔道を指導する意義、町道場の可能性、後継者を育てることについてなどの章に分かれており、道場経営者であれば、どの章にも興味を持たれることと思います。